



平城宮調査位置図

西日本出土の漆紙文書

佐藤宗諱・橋本義則「漆紙文書集成」(本誌九号)では、その冒頭に、漆紙文書の出土はほぼ全国にわたり、特定の地域に限られるものではないとの指摘がある。しかしながら、都城を含め、西日本における漆紙文書については、これまであまり注目されなかったのも事実である。しかし一九九五年には本号に掲載したように平城宮第二五九次調査、長岡宮第三〇一次調査、長岡京左京第三七三次調査でも漆紙文書が出土したことが知られる。また、平城京で過去に出土し、報告された漆紙文書を再調査した結果、紙背に今まで知られていなかった文書があることが明らかになった例もある(奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所年報一九九六』一九九七年刊行予定)。

漆作業が行なわれた限り漆の蓋紙を用いることはあったはずで、漆の消費地であった都城はもちろん、西日本各地での出土、再発見の例が増加することが期待される。

(古尾谷知浩)